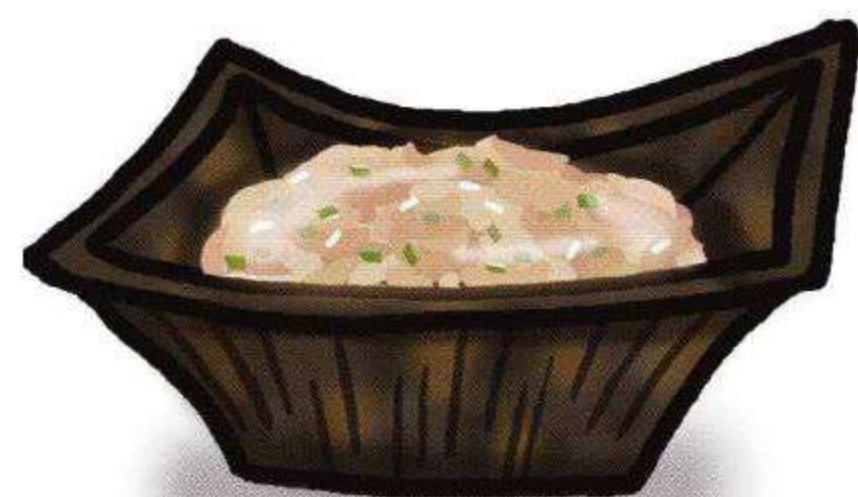




イペアンロー！ (いただきます)

今回は、アイヌ文化ではとても大切な神様、キムンカムイ（クマ）です。キムンカムイは、毛皮や肉、薬など、たくさんのおみやげをもってクマに姿を変え、人間の世界に来ると考えられています。



「キムンカムイ」 クマ毛皮や肉、薬にも

ます。また来てくださいますと願いをこめて、たましいを神の国に送り返す、イオマンテという盛大なお祭りもしました。

とるときは、春先に冬ごもりをしている穴を探します。みついたら、巣穴の出口をがんじょうな木の棒でふさぎ、毒をぬった矢や、やりでしとめます。別の季節には、張った糸にふれると矢が飛び出すクアリ（しかけ弓）を使いました。

キムンカムイの肉や腸などは、干したり、にたり焼いたりして食べます。骨はにこんで油をとる、ぼうこうは、かわかして油などを入れるふくろにします。内臓の「たんのう」は、中国で古くから薬として使われていますが、同じく胃の薬になりました。

イオマンテのときの特別な料理に、「チノイペコタタ」=イラスト=があります。ゆでてみじん切りにした、ほお肉に、脳みそと、きざんだネギをまぜ、塩でうすく味を付けます。ほかの料理とちがい、男の人が作らなければなりません。

中国料理でも珍味として有名な手のひらの肉は、ウレハルと呼ばれ、貴重でおいしいので、おくり物にも使われました。

アイヌ叙事詩ユーカラ集

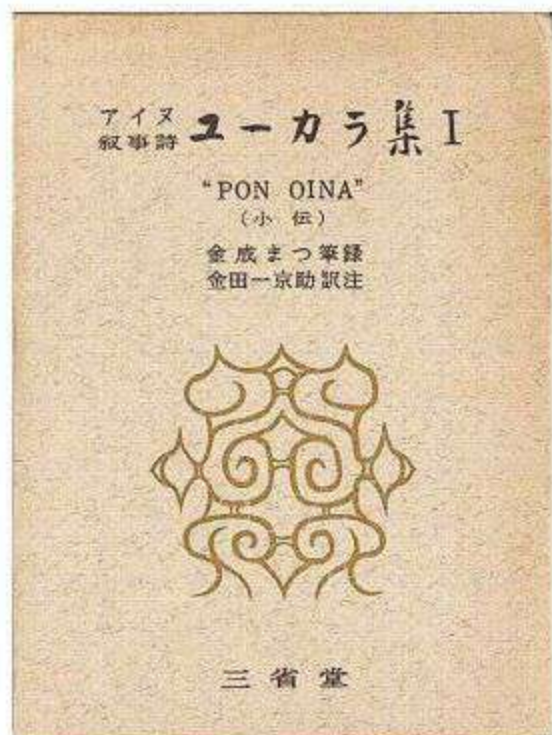
金成マツ筆録、金田一京助訳注

物を教えました。近所の人を呼んで、モナッノウクのユカラ（英雄物語）や歌も楽しみました。

やがて幸恵は、東京のアイヌ語学者・金田一京助のもとでアイヌ語の記録をはじめますが、心臓の病気で、19歳で亡くなります。

幸恵の死後、マツは、自分が知っているユカラやウエペケレ（昔話）などを、およそ100冊のノートにローマ字で書き残します。一部は金田一や幸恵の弟・知里真志保によって日本語に訳され、この「ユーカラ集」として出版されました。1956年に無形文化財保持者に指定され、国からも功績をたたえられました。

(1959年 三省堂=絶版)



「フムフム」はアイヌ語でのあいづち

動画を見て楽しんだり、勉強したりすることも多いと思います。アイヌ語にふれられる動画もたくさんあることは、知っていましたか。

アイヌ民族文化財団の「アイヌ語動画講座」シリーズもその一つ。楽しみながらアイヌ語に親しんでもらおうと、たくさんのお出演者が、思い思いの方法でアイヌ語を伝えています。新作から、いくつかをしょうかいしましょう。

私（北原）のイチオシは、植物や動物のことをよく知っている北海道アイヌのアチャ（おじさん）が、自然のなかで言葉や文化を解説する「アイヌ語自然講座」。新作では山菜を料理しながら、名前や食べ方を教えてください。

「アイヌ語料理講座」は、今年初めて作られました。海の食材を使った、日高の郷似町の料理を学べます。棒だらやワカメのヤマウ（冷たいスープ）は夏にぴったりで、私も大好きです。

「ししゅう」に興味がある人は、樺太アイヌの手仕事の動画を見てください。きれいな文様の入った着物や小物入れ、手ぶくろを見ながら、さし方を知ることができます。日高の平取町や、胆振の白老町の博物館を案内する動画もあります。昔の道具の使い方や、施設の案内表示のために新しく作られたアイヌ語のいろいろ、そこで働く人たちの仕事を見ることが出来ます。

小学生も出演していますよ。「子どもアイヌ語教室」で体を動かしながらアイヌ語の発

動画で親しむアイヌ語

自然、料理、手仕事…楽しく解説



アイヌ語と日本語の字幕付き。字幕なしの動画もあります。

音やリズムをおぼえたり、「紙芝居」で海の生き物をしょうかいしたり。「ラブシチュエ」ってどんな生き物だと思いますか。私もこの動画で初めて知りました。

このシリーズは毎年、24本ほどの新作が作られ、これまでにたくさんの動画がアップされています。昔話や歌の動画もありますので、財団のホームページで探してみてください。

きょうのこ と ば

●アイヌ語

「イペアンロー！」のコーナーにも、ときどきアイヌ語が出てきますね。アイヌ語と日本語には、いろいろなちがいがあ

ります。たとえば、北海道のアイヌ語では、鳥をチカッといいます。ことばの形が全くちがいますね。小さい「ア」のように、読み方や書き方もちがいます。また、鳥が飛ぶことはホブニ、たくさん

の鳥が飛ぶことはホブンバと言うなど、日本語とは別のことばのルールもあります。アイヌ語は、明治時代になると、和民族の政府がつくった制度や差別のために使うことができなくなりました。アイヌ語を使うと、しかる先生もいたので、大人でもアイヌ語を知っている人はとても少ないですし、教科書にも書いていません。

そこで、今は、学校でも使える教材や動画が配信されています。

●動画での勉強

動画を使った勉強には、良いことがたくさんあります。

「シリカッ（魚のカジキ）」の「リ」「ア」といったアイヌ語を表す文字が読めなくても、動画なら音が分かります。会話のしかたを場面といっしょにおぼえたり、めずらしい道具を見ながら、道具について知ったりすることもできます。

たとえば、アイヌ語自然講座には、鳥をつかまえるワナなどをしょうかいした動画もありますよ（鳥の人形を使って説明しています）。